

第2章 情報企画室図書担当

【構成員】

担当教授(兼):米永 一郎

図書係長:木戸浦 豊和/図書系職員:小林 真理絵/事務補佐員[3名]

【図書整備委員会】

委員長 准教授: 鳴海 康雄

委員 准教授: 佐藤 成男

助教: 小泉 晴比古, 関 剛斎, 和田 武, 稗田 純子, 橋本 顕一郎, 沓掛 健太郎

オブザーバー 教授: 米永 一郎

総務課長: 石井 俊明

1. はじめに

図書室は、1800年代から今日まで、材料科学に関する幅広い領域の資料を積極的に収集・所蔵し、充実した専門資料をもとに、所内・学内はもとより国内外の研究者に幅広いサービスを提供している。研究や情報を取り巻く環境が変化し、多様化する現在においても、利用者ニーズを的確に把握し、かつ、親しみやすく快適な図書室であることを目指している。

2. 組織・運営

図書室は、図書係として事務部総務課に属し、係長を含む職員2名と事務補佐員3名の体制で業務を行っている。また、図書室は、情報企画室のもと、図書整備委員会とも連携して運営されている。

図書整備委員会は、1996年に「図書電子化小委員会」として発足し、2004年に所内委員会「図書電子化委員会」に発展・改組後、2010年3月に現在の名称に変更された。委員会は、研究者の視点から専門資料の選定やデータベース環境の整備について、図書室に助言を行うとともに、利用者への広報活動やガイダンスおよびオリエンテーションの実施などについても、図書室に協力してきた。このように研究者と図書室が連携して情報整備を行う委員会は特筆されるべき事柄であり、今後もこのような体制は維持・継続されるべきであろう。

また、図書室は、附属図書館本館および各分館・図書室と緊密な連絡を取りつつ、図書業務を遂行するとともに、部局図書室として唯一、本館を介さずに図書購入・支払・目録登録を行う業務体制を維持している。その結果、研究者へ迅速に資料を提供することを実現している。

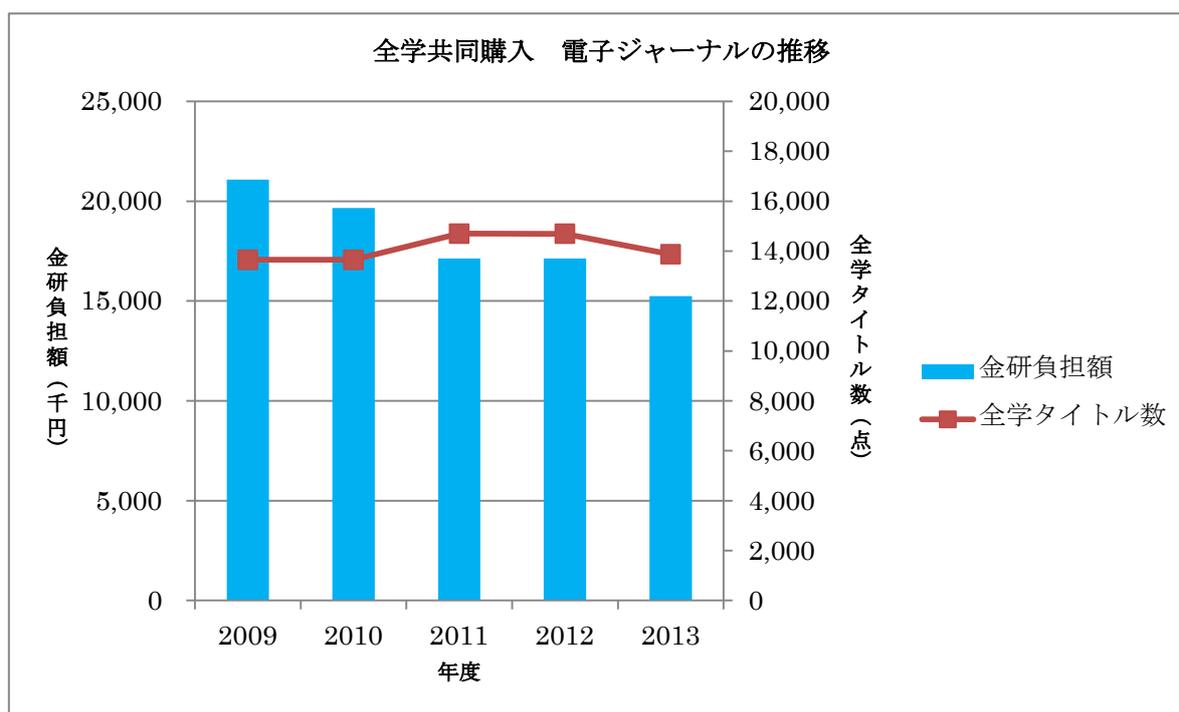
3. 電子ジャーナルの問題

本学は、2001年のAPS誌共同購入をはじめとして、附属図書館の「学術情報整備計画」のもとで、電子ジャーナルや二次情報データベースの整備を段階的に進めてきた。

図書室ではこの整備計画に沿って冊子体を中止し、電子ジャーナルのみを契約するなど、外国雑誌の経費抑制のため、努力を続けてきた。その結果、図書室が契約するタイトルの9割以上が既に電子ジャーナルのみの契約に移行している。

しかし、このような努力にもかかわらず、東北大学全体の電子ジャーナル経費の増加は続き、加えて、近年は政府の経済政策による円安傾向が電子ジャーナル経費の増大に一層の拍車をかけている。さらに、今後、海外サーバから配信される電子ジャーナルや電子ブックなどへの消費税課税を検討されており、更なる経費の増大へとつながる恐れがある。このように電子ジャーナルの経費をめぐってはまったく予断を許さない状況が続いており、全学的な総意にもとづいて抜本的な対策を取ることが必要となっている。

また、電子ジャーナルを利用する上では、ルールに従って適切に利用することが不可欠である。金研では過去数年間、電子ジャーナルの不正利用は発生していない。しかし、不正アクセスが発覚すると、適正な処置が取られるまでの間、所内または大学全体の電子ジャーナルの利用が停止される場合があり、研究活動に甚大な被害を与える。図書室では毎年、適正な利用を心がけるように利用者に注意を促しているが、今後もさらに周知を徹底していきたい。



*2010年度および2011年度の金研負担額の低下は、主に円高の影響によるものである。また、2013年度の金研負担額の低下は、学内部局間の経費負担方法の変更によるものである。

4. 蔵書管理

4.1 図書の充実

限られた予算の中で常に図書の充実を図っている。新刊案内などを参考に、物質・材料科学分野の基本的な図書や、図書整備委員および研究室などから推薦された図書を積極的に購入し、蔵書の充実を目指している。また、研究室や研究者が個別に購入しにくいシリーズ本やハンドブック、データ集、国際会議録などを継続図書として購入している。2013年度は、教員や学生の推薦により、合計461点の図書を購入した。なお、2013年度からTwitterを活用し、随時、新着図書を案内しており、図書が有効に利活用されるように広報に努めている。

また、電子ブックの整備は適宜検討しながら実施しており、2013年度末現在では金研図書室の予算で合計107点を導入している。これらはすべて蔵書検索システム(OPAC)から検索することが可能である。また、他館でも積極的に電子ブックの購入を進めており、大学全体で利用できるタイトル数も大幅に増加している。近年、欧米の出版社では、学術図書や教科書などを電子ブックによって刊行することは一般的であり、日本の出版社においても今後、紙から電子ブックへの転換はますます加速することが予測される。メディアの変化や情報環境の進展を見極め、適切に蔵書の充実を進めることは、図書室の変わらない役割である。

4.2 蔵書点検

毎年2回、書庫の蔵書点検を定期的に行い、不明図書・発見図書の確認や配架整備を行っている。不明図書については、教授会でアナウンスを行うなど、適正な利用を心がけるよう注意を喚起している。図書は共有財産であるので、引き続き貸出手续の徹底や返却期限の厳守を呼びかけていきたい。

4.3 金研出版物の保存・公開

金研で発行される報告書や広報誌などは、可能な限り図書室で収集・保存し、専用のコーナーを設けて利用に供している。また、金研百周年を控え、所内刊行物に対する問い合わせも増えていることから、過去に発行された分も収集・保存することを検討している。さらに、所内関係部署との協力・連携のもと、所内刊行物を東北大学機関リポジトリ TOUR に積極的に登録し、公開するよう働きかけていきたい。

5. 利用者サービスの充実

学生や教職員との距離が近い部局図書室の利点を活かし、利用者にとってより身近で、行き届いたサービスを提供するよう、スタッフ全員で努力している。

5.1 利用者向け講習会

毎年春に、金研の新構成員のために図書整備委員を講師として、主要なデータベースの講習と図書室のオリエンテーションを行っている。2013年度は新大学院生を中心に46名の参加があった。内容は毎年見直しを行い、利用頻度の高いデータベースを取り上げている。2013年度の図書室オリエンテーションでは、特に蔵書検索システム(OPAC)や、図書館オンラインサービスのMyLibrary、さらに、電子ジャーナルの利用方法の説明を強化した。

さらに、各種データベースの説明会開催も、機会を捉えて積極的に協力し、学生や研究者がより効

果的・効率的に利用できるようサポートしている。2013年6月18日には「Springer Materials 講習会」を開催し、7月2日には「引用索引データベースの活用法と研究評価の最前線」の開催に協力した。

開催日	内 容	主 催	参加者
2013.5.15	金研図書室オリエンテーション (15:30-17:00) 第1部 図書室オリエンテーション ・ 図書室の設備と基本的なサービス ・ オンラインサービス(OPAC、電子ジャーナル) 第2部 各種データベースの使い方 ・ ICDD Cards ・ Alloy Phase Diagrams Online ・ International Tables for Crystallography ・ Scopus, Web of Science ・ GeNii	図書整備委員会 図書係	46名

5.2 情報検索コーナー

図書室では図書整備委員会のサポートを受けながら、多くのデータベースの中から有用なものを厳選し、図書室の情報検索コーナーで利用者が常時使えるように環境を整えている。

図書閲覧室の情報検索用パソコン5台のうち1台は多言語表示に対応している。また、パソコンの安全対策として、ウイルスチェックソフトとハードドライブシールドソフトを導入している。今後も、図書整備委員会との連携のもとでデータベースのオンライン化や利用環境の改善に努めたい。

オンライン	CD-ROM
Alloy Phase Diagrams Online	ICDD Cards (Powder Diffraction File)
ICSD	Pauling File
International Tables Online	Pearson's Crystal Data
Phase Equilibria Diagrams Online	CRC Handbook of Chemistry & Physics
Scopus	鉄鋼便覧
Web of Science	Database of Titanium Properties
Journal Citation Reports	その他
SciFinder Scholar	
CiNii, KAKEN など	

5.3 『情報検索の手引き』の刊行

図書整備委員会と図書係とでは、研究活動に欠かすことのできない各種データベースやツールに関して、利用マニュアル『情報検索の手引き』を作成し、提供している。この『情報検索の手引き』は1997年以降隔年で改訂し、第8版を2013年3月に刊行した。第8版では、記述の内容の全面的な見直しを行い、最新の情報を反映するよう努めた。

『情報検索の手引き』は各研究室やオリエンテーションの参加者に配布するほか、図書室の情報検索コーナーに備え付け、いつでも参照できるようにしている。また、所内に限り、図書室ホームページ上で公開している。

研究者である委員が、自身の研究活動に基づいて執筆したマニュアルは金研の構成員にとって極めて有用である。今後もより使いやすい『手引き』へと更新していきたい。

5.4 ホームページの充実

図書室では、2013年度に図書室ホームページの見直しと全面的な更新作業に取りかかり、2014年4月1日から新しいホームページを公開した。今回の更新ではデザインを一新するとともに、トップページに蔵書検索や東北大学機関リポジトリ TOUR、さらに、Web of Science や CiNii など、主要データベースの簡易検索機能を設け、図書室ホームページからの情報検索をより容易に、かつ、スムーズに行えるように改善した。また、新着雑誌の目次速報や、Twitter などの SNS を活用した新着図書の案内など、図書室からの情報発信機能をも強化した。

The screenshot shows the homepage of the Tohoku University Institute for Materials Research Library. At the top, there is a header with the library's name in Japanese and English, along with logos for '100 Years of IMR' and 'Purchase of desired books accepted'. Below the header is a navigation menu with items like HOME, 利用案内, 情報検索, MyLibrary, 所内事務手続, リンク, お問い合わせ, and アクセス. The main content area is divided into several sections: 'お知らせ' (Notice) with dates from 2014.07.10, '情報検索' (Information Search) with tabs for 蔵書検索, 電子ジャーナル, 論文検索, 物質・材料・特許, and 研究・その他; '開室状況' (Opening Hours) with a table of hours; '新着資料情報' (New Arrivals Information) with links to new books and journal articles; and '図書室 Twitter' (Library Twitter) with a tweet from the library and another from a research support room.

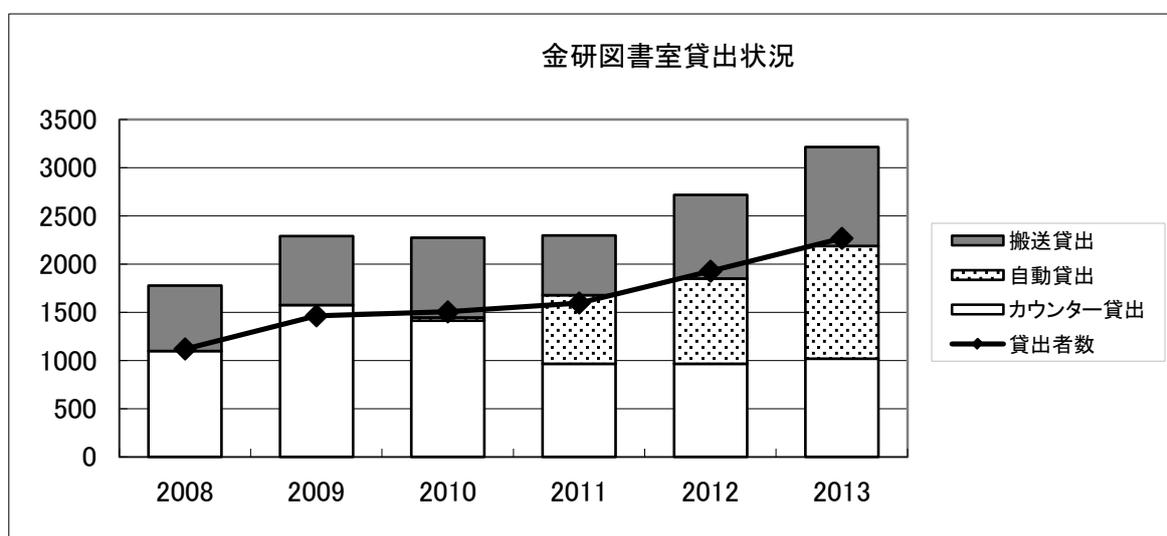
金研図書室ホームページ (2014年7月11日現在)

5.5 「金研図書室だより」の発行

学術情報や図書室の最新情報をお知らせするため、「金研図書室だより」を随時発行している。ホームページにも最新情報を掲載しているが、個々の利用者に図書室をより身近に感じてもらえるように、印刷物として発行している。

5.6 資料の貸出

2013年度は、図書の貸出冊数が3,215冊（昨年度に比べ497冊の増加）、貸出者数が2,268人（昨年度に比べ341人の増加）となった。これらの数値は2008年度に比較すると、両者ともに2倍近い伸張となっている。このように貸出冊数・貸出者数ともに大幅に増加した背景には、教員・学生からの推薦によって蔵書の充実が図られていること、また、2011年度より自動貸出装置を夜間と休日にも稼働させ、24時間貸出の手続きを行えるようになったこと、さらに、キャンパス間資料搬送サービスが利用者に十分に周知されてきたことなどを挙げることができる。この搬送サービスを利用した図書の貸出冊数は1,026冊であり、総貸出冊数の約3割を占める。今後、搬送サービスを利用した貸出実績の多い図書のうち、金研図書室の蔵書にふさわしいものは積極的に購入し、所蔵するなどの対応が課題となるだろう。



5.7 利用環境・施設の整備

2013年度中の取り組みとして、書庫の利用環境改善のため、今後、利用の見込まれない重複図書・雑誌約600冊を整理した。また、施設の整備として、電動集密書架の耐震性を強化するため棚板を交換するとともに、落下防止バーを設置した。東日本大震災の体験を踏まえ、今後も引き続き、図書室の震災対策に取り組む必要がある。

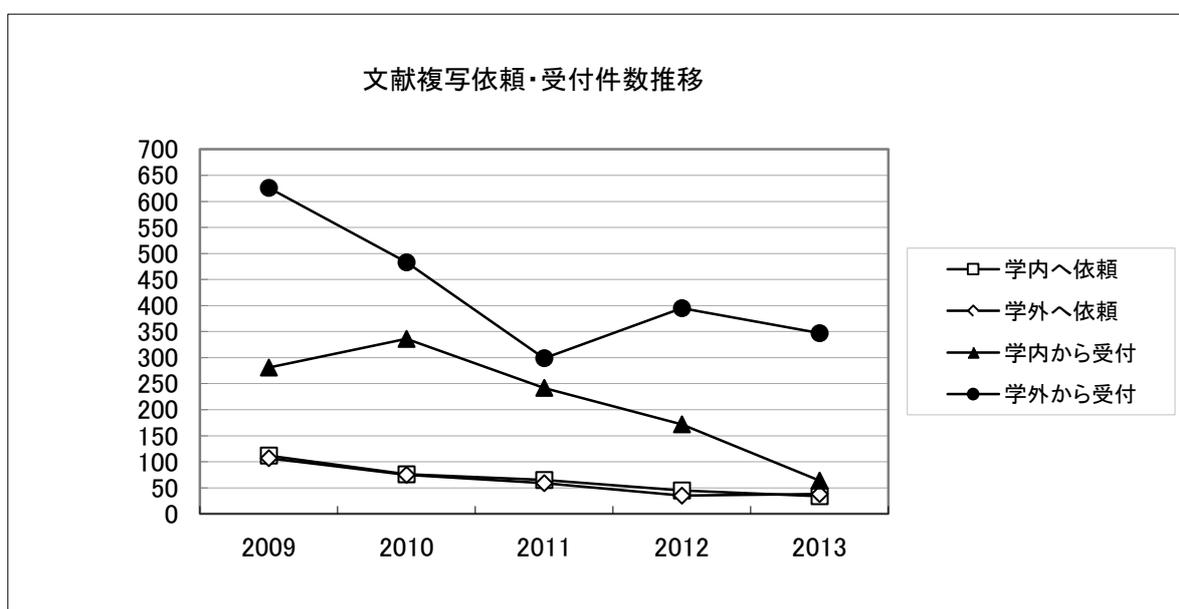
6. 文献複写・現物貸借（図書館間相互利用サービス）

学内の各図書館および学外の他大学図書館との相互文献複写サービスは、教員や学生の研究・学習を支える図書室の重要な業務の一つである。そのため、図書室では利用者へ迅速に文献を手渡せるように努めている。また、2013年度より学内・学外の図書館へ依頼する文献複写の費用を図書室が負担する試みをはじめた。ただし、学術雑誌の電子ジャーナル化の影響で全国的に文献複写サービスの件数は減少傾向にあり、金研においても同様である。

なお、2011年度の学外からの文献複写の受付数は、東日本大震災の影響のため、2010年度に対し大きく落ち込み、299件であったが、2012年度の受付数は395件となり、約100件増加した。しかし、2013年度の学外からの受付件数は347件と再び減少し、全体的に言えば引き続き減少傾向にあると言って良い。

また、文献を画像化してオンラインで送受信する画像伝送システムも比較的良く利用されている。著作権法や出版社許諾の範囲内という制約があるため、学内限定で行っている e-DDS(Electronic Document Delivery Service)は、迅速に文献の受け渡しができるため、利用者に好評であり、図書室サービスの一環として既に広く定着したと言って良いだろう。

長年の懸案であった他大学図書館との図書現物の貸借については、2011年度から実施を開始した。過去3年間で貸出・借受ともに年間10件前後で推移している。



7. その他

研究支援の役割を確実に果たし、また利用者のニーズに応えた多様なサービスを提供するため、図書室職員は各種研修会に積極的に参加している。また図書系職員として、図書館本館が中心になって進めている各種委員会やワーキンググループのメンバーの一員として活動している。

7.1 研修等

- ・ 目録システム講習会
- ・ 図書館職員総合研修
- ・ 事務情報化講習会

7.2 各種委員会、ワーキンググループ、会議等

- ・ 図書館情報教育支援 WG

- ・ 附属図書館部課長打合せ
- ・ 全学図書系係長等会議
- ・ 附属図書館商議会（陪席）
- ・ 附属図書館運営会議（陪席）
- ・ 学術情報整備検討委員会（陪席）
- ・ 分野別資料選定 WG（陪席）

8. 統計（平成 25 年度）

■施設

総面積	書架総延長	図書収容能力	総閲覧座席数	パソコン台数	複写機台数
534 m ²	2.39km	6.6 万冊	28 席	6 台	4 台

■資料

		和書	洋書	合計	
蔵書	蔵書冊数	19,329 冊	64,475 冊	83,804 冊	*開架冊数:52,957 冊
	年間受入冊数	441 冊	216 冊	657 冊	
雑誌	雑誌種類数	391 種	999 種	1,390 種	
	年間受入雑誌種類数	145 種	137 種	282 種	
	電子ジャーナル数(全学)	464 種	13,411 種	13,875 種	
	新聞種類数	6 種	1 種	7 種	

*蔵書は研究室貸出分や製本雑誌を含む

*受入：購入・受贈・保管場所変更等により図書室の蔵書として登録すること

■サービス

開室日数	サービス対象		入室者	貸出	文献複写		現物貸借	
	教職員	学生		貸出 (うち搬送)	依頼	発送	借用	貸出
241 日	408 人	236 人	14,755 人	3,215 冊 (1,026 冊)	72 件	411 件	12 件	9 件